

ほっかいどうの社会保障

2022年10月26日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

コロナ災害と物価高騰で「辛抱するのも限界」！

10月22日 いのちと暮らしを守るなんでも電話無料相談会

新型コロナウイルス感染症が収まらずコロナ災害が続いています。もともと新自由主義政策(社会保障改悪、消費税増税、労働分野の規制緩和、金融緩和等)の下、格差と貧困が広がっています。物価高騰が生活困窮に拍車をかけています。

雇用・暮らし・SOSネットワーク北海道と反貧困ネット北海道は、10月22日に全国で行われた「コロナ災害を乗り越える いのちと暮らしを守る なんでも電話相談会」(16回目)に参加。

当日は26人の方から相談が寄せられ、弁護士やケースワーカーなどの専門家が相談に応じました。相談者は40代から80代で低年金の年金生活者や生活保護利用者が多く、生活費問題が19件でした。物価高騰による生活苦の実態や灯油代の値上げによる冬場の生活についての不安が寄せられました。政府が非課税世帯に5万円給付する「電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金」についての問い合わせが相次ぎました。

中には、50円のパンのミミを食べて凌いでいる方、コロナ災害で失業された方、医療費がなかなか払えない、コロナワクチンの副反応の補償などの相談も寄せられました。また、東北地方から3.11震災被害者からの相談も複数寄せられ、公共料金の滞納で水道料金が止められ公園の水で生活していた方など、震災後の生活困難が解消されず、震災はまだ終わっていない実態も明らかになりました。



親の介護と病気で働けず、50円のパンのミミで凌いでいる

■58歳男性、本人は心疾患があり(2008年2020年入院)、両親の介護もあり働けない。80代父、認知症もあり新疾患あり。現在ヘルパーを利用。80代母も認知症。この間、父と母が入院、5ヵ月で200万円かかった。負担できないため、家で介護中。50円のパンのミミを買い凌いでいる。

安売りでパンを買い昼食にしている

■83歳女性、37歳の孫と二人暮らし。年金月13万円。孫は大工だが、仕事が少なく収入少なく、喘息もあり無理できない。灯油代も上がり、辛抱するのも限界。安売りで88円の豆パンを購入し昼食にしている。

コロナ禍で失業 借金の返済ができない

■派遣社員だったが、コロナで業務量が減り、期間満了で失業。クレジットの返済できず滞納しそう。失業保険の手続きをしたが、自主退職扱いで支給は3ヵ月後。

アレルギーでコロナワクチン打てず退職 借金しながら生活

■65歳女性、今年6月まで病院勤務。コロナワクチンはアレルギーあるため打てず、退職が迫られ自主退職にした。今月の家賃7万円が払えない。すでに1ヵ月滞納。借金しながら食いつないでいる。アクセサリなど売って2万円を作った。借金の利息分を月6千円払っている。

失業保険が切れて生活大変

■40代女性、3月に退職し、失業保険をもらっていたが10月切れた。国の支援給付金を受けたい。

低年金。病院代が多額で生活できない

■66歳男性、年金月12万円(手取り11万円)。病院4カ所。病院代が多く生活できない。預金を取り崩している。

コロナワクチンの副反応で廃業

■59歳男性、コロナワクチン接種の副反応で体調不良。線維筋痛症と診断、ステロイド治療3ヵ月。農業を廃業。国の保障なし。弁護士とも相談したが、集団訴訟しかないとされている。

3.11震災被害者の生活困窮 震災は終わっていない

■75歳男性、3.11震災県で県内避難。年金では足りず、年金担保で60万円借り月5万円返済中。ガス・電気料金など払えず督促が届いている。以前は水道料金も滞納し、公園の水で生活したこともある。

■66歳男性、3.11震災被災者。年金月8万円。車も持てない。食べるものは、おにぎり、カップラーメン。昼は電気を消している。震災被害は終わっていない。

次回の相談会は 12月17日(土) 10時から フリーダイヤル 0120-157930